

みんなの声

【子どもたち】

- ・みんなと一緒に勉強するのが楽しい。
- ・初めて宿題を全部出せてうれしかった。
- ・違う学校の友だちができた。
- ・勉強を教えてもらえるのがうれしかった。

【保護者】

- ・親が手伝えない宿題を見てもらえてありがたい。
- ・子どもが楽しそうに教室へ行った。
- ・毎日勉強する習慣が付き、計画的に進めていくことができよかった。
- ・子どもは夏休み中に宿題を終えて、安心と誇りをもって学校へ行くことができた。

【ボランティア】

- ・子どもたちと関わるのが楽しかった。
- ・子どもたちができた姿を見て、ボランティアとしてやりがいを感じた。
- ・外国人の家族や、子どもたちの学習の助けができて良かった。
- ・同じ学年でも子どもによってニーズが異なるため、一人ひとりと時間をかけて接していくことが必要であると感じた。
- ・将来小学校の先生になりたいと思っている。このボランティアを通して学んだことをもとに、外国籍の児童に寄り添った支援をしていきたい。



これから

子どもたちが、やる気をもって学習に取り組めるよう、市・市教育委員会・学校と連携しながら、引き続き学習支援環境を整えていきます。また、本事業に関わる市民や学生を増やすことで、鈴鹿市民の皆さんが、多文化共生のまちづくりに関心を持てるように努めていきます。

Special Thanks! 本事業にご協力いただいた団体様

- ・Fun Fun Salon (国際子育てサロン)
- ・ワールドキッズ (学習支援教室)
- ・生活協同組合コープみえ鈴鹿センター
- ・飯野小学校
- ・河曲小学校
- ・鈴鹿市教育委員会



ボランティア募集

夏休み・冬休みの間でお時間があり、活動に興味をお持ちの方は、本協会までご連絡ください。
1日からの参加も大丈夫です。Eメール(sifa@mecha.ne.jp) → → → → → → → →



公益財団法人鈴鹿国際交流協会 (SIFA)
TEL : 059-383-0724 FAX : 059-383-0639
E-mail : sifa@mecha.ne.jp



子どもたちのやる気
につながる

外国につながる児童の 長期休みの宿題支援教室 3年間の取り組み



(2021 夏休み ポスター作品とともに)

公益財団法人鈴鹿国際交流協会
(SIFA)

日本の小学校の宿題って大変なんです!!!

問題集(ワーク)に加えて、計算・漢字プリント、ポスター、習字、自由研究、計算カード・九九カード、日記(絵日記、1行日記)、生活カード(読書、歯みがき、手伝い、天気)など、取り組むことがたくさんあります。外国につながる子どもたちは、ワークについては宿題だとわかるのですが、他に何をしなければいけないのかわかっていない場合があったり、保護者も経験がなく子どもに教えられなかったりすることがあります。



子どもたちを見ていて、次のような課題に気づきました。

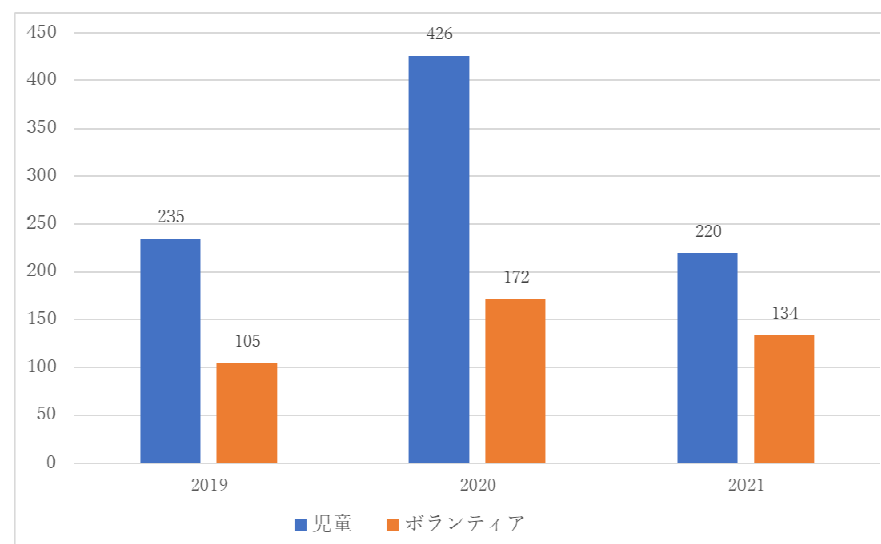
問題文が読めない。 文章がうまく書けない。 ポスターや感想文の書き方がわからない。 応募規定がわからない。	基礎的な計算や九九が定着していない。 教えてもらう人がいない。 保護者の協力が得られない。
--	---

また、宿題に取り組まなかったり、答えを丸写しして提出したりする子もいます。

事業の目的

- ・子どもたちや保護者の困り感に寄り添い、安心して相談できる場を作る。
- ・子どもたちがやる気をもって夏休みや冬休みの宿題に取り組めるように支援を行う。

事業に参加した児童とボランティアの数(のべ人数 夏休み)



年	2019	2020	2021
日数	18日	12日	7日
児童	24人	53人	43人
ボランティア	19人	53人	52人
参加校	7校	9校	14校

【参加児童につながる国】
ブラジル、ペルー、ポリビア、フィリピン、タイ、シリア、エジプト、韓国、中国

児童とボランティアの数から見てくること・・・

- ・マンツーマンでの対応が望ましいがボランティアが足りないため、十分な支援ができない。
- ・様々な母語を持つ子たちに対する対応が難しい。
- ・支援の必要な子たちが参加できていない状況がある。鈴鹿市の外国人児童生徒数は、711人(内、日本語指導が必要な子どもは、370人)



事業を通して見えてきた課題と工夫

①	何が宿題なのかということがわかっていない
	・ボランティアと一緒に宿題を一つ一つ確認しながら、カードに記入する。 ・終わったら確認の◎をつける。 ・計算カードや読書カード、一行日記など、毎日する宿題をボランティアと一緒にする。 ・全ての宿題をファイルに入れる
②	日本語が話せない。言葉の意味がわからない
	・日本語がほとんど理解できない子どもには、指導助手(通訳)の先生に支援をお願いする。 ・問題文と一緒に読んだり、ルビをふったりする。 ・絵カードや画像など具体物を使って説明する。
③	基礎学力がついていない(たとえば、高学年でも九九を覚えていない)
	・低学年は、計算カードや九九カードを使って計算練習をする。 ・様々な練習プリントを準備しておき、苦手な課題を復習する。 ・子どもに応じて学習ができるようにプリントだけでなく、百玉そろばん、ブロック、時計、文字カード、言葉カードなどを準備する。
④	ポスターは、何を描けばいいのかわからない
	・ポスターの意味から教える。 ・高学年は、ボランティアと一緒に応募要項を読んで理解することから始める。 ・参考資料(絵本や図鑑、過去の入選作品やポスターなど)を準備する。 ・応募個票の添付は、記入や添付の仕方に決まりがあるのでボランティアが手伝う。
⑤	感想文をどうやって書けばいいのかわからない
	・子どもたちが読みやすかったり、興味をもったりしそうな本を準備する。 ・子どもたちの力で読める本を選び、一緒に読んで、内容を確認する。 ・ボランティアと話をしながら、読書メモや下書きを書いていく。 ・ボランティア用に「感想文の書き方」の手引きを準備する。
⑥	家で習字をするのは大変
	・習字の先生にボランティアで参加していただき、個別指導をお願いする。 ・習字道具を確認し、一緒に手入れをして整える。 ・個々の課題を確認し、手本を準備する。 ・低学年は、手本・用紙を準備して、硬筆の練習をする。
他にも	【楽しく学習できるように・・・】 ・低学年にとって2時間は長いので、学習が終わったら、かるた、折り紙、絵本、点つなぎプリントなど楽しい学習もできるように工夫する。 ・みんなで一緒にできる製作の時間を設ける。(折り紙、伊勢型紙など)

